

認知症に関する事業マネジメント研修会

認知症当事者や家族の意向や支援ニーズを知ろう



公益社団法人
認知症の人と家族の会

副代表理事 花俣ふみ代



1. 家族の会埼玉県支部の活動内容

家族の会 三本柱の活動(埼玉県支部)

つどい

- ・ 本人や介護家族同士で集まり、理解し合える会員同士の交流会、情報交換、悩みの相談の場です。
- ・ 県内各地で開催されており、家族は互いに語り合い励ましあっています。
令和4年度実績:104回開催、1117名が参加(コロナ禍で半減したが回復傾向)

電話相談

- ・ 介護体験のある家族の会の世話人が、電話で悩み相談などを受け付けています。
(開設時間:月・火・水・金・土 10:00~15:00 電話番号:048-814-1210)
- ・ 家族のことを知られたくない方や、日中家を空けられない方も、電話により日頃の悩みを話すことができます。
令和元年度:243日実施、相談件数706件
*** 認知症コールセンターの位置づけで県より委託されています。**

会報発行

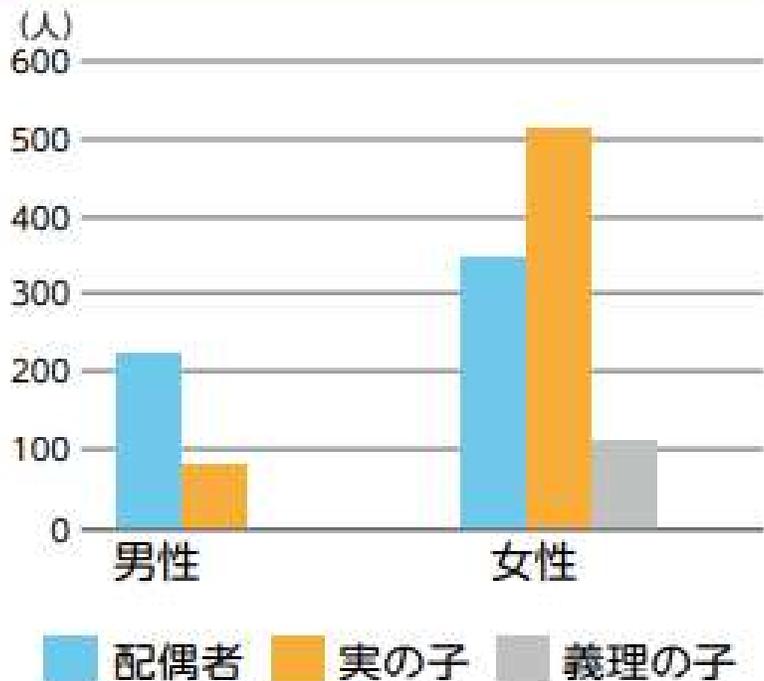
- ・ 偶数月の**年間6回・支部報「ふれあい」**を発行し、会員の介護体験記や身近なニュース、支部活動の様子などをA4版・8頁でお知らせしています。

2. 家族介護の状況

<家族介護の状況①>



認知症の人を介護する人



■ 認知症の人と主な介護家族との関係

子の配偶者 1981年 31.9% ⇒ 2019年 7.2%

*子の配偶者（過去は嫁）による義理の関係の介護から
血縁関係のある実の子が介護を担う状況

配偶者 22.9% ⇒ 47.7%

*核家族化により、夫婦でできる範囲で助け合う

子ども（息子・娘） 21.1% ⇒ 40.7%

*高齢化により両親ともども介護が必要になったときには、
子どもが介護をせざるを得ない状況がある

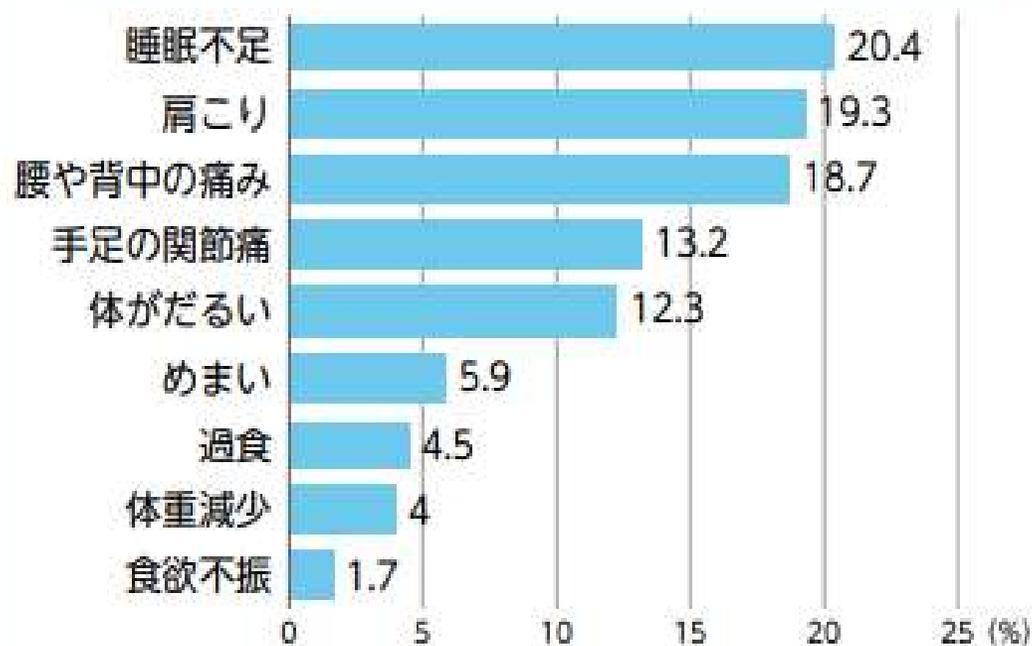
令和元年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

認知症の人と家族の思いと介護状況および市民の認知症に関する意識の実態調査 より

<家族介護の状況②>



介護家族が有する自覚症状 (複数回答)



介護が生活に及ぼす影響 (複数回答)

| 内容 | 割合 |
|-------------------|-----|
| 気が休まらない | 52% |
| 自分の時間が持てない | 39% |
| 外出できない | 27% |
| 家事に思うように手がまわらない | 23% |
| 留守を見てくれる人がいない | 23% |
| 介護を手助けしてくれる人がいない | 21% |
| 経済的負担が大きい | 21% |
| 認知症の人との関係がうまくいかない | 17% |
| 仕事に出られない | 15% |
| 親族との関係がうまくいかない | 10% |
| 家庭内がうまくいかない | 10% |
| 自分の持病が悪化した | 10% |
| その他 | 10% |
| 特にない | 10% |

<家族介護の状況③>

介護家族が困っている症状 (複数回答)

| 内容 | 割合 |
|--------------|-----|
| 同じことを何度も聞かれる | 46% |
| 目が離せない | 32% |
| 興奮を鎮めるのが大変 | 21% |
| サービスの利用を嫌がる | 20% |
| 火の不始末や徘徊 | 16% |

介護家族が、認知症の人への対応で困っている症状では、「認知症の人が何度も同じことを聞いてくる」「目が離せない」という症状に困っていることが多いです。これらの症状は、主に認知症の初期から中等度の段階で出てくることが多いです。

認知症の症状に困る中等度になる前から、様々な情報を得て、対応できるようにしておくといいかもしれません。

一日の介護時間



介護時間は昼夜問わず一日中という人が全体の24%ともっとも多いです。

認知症の人の介護（見守りを含む）が家族の生活に及ぼす影響に関しても、「気が休まらない」という人が52%でもっとも多く、次いで「自分の時間が持てない」などが続き、生活に余裕がない様子がありました。

3. 若年のつどいの実施状況

若年のつといの様子



午前は全体会

午後は介護者と
本人に分かれて～

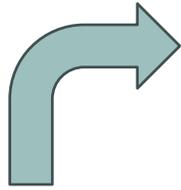


世界アルツハイマーデー
イベントでも協業！

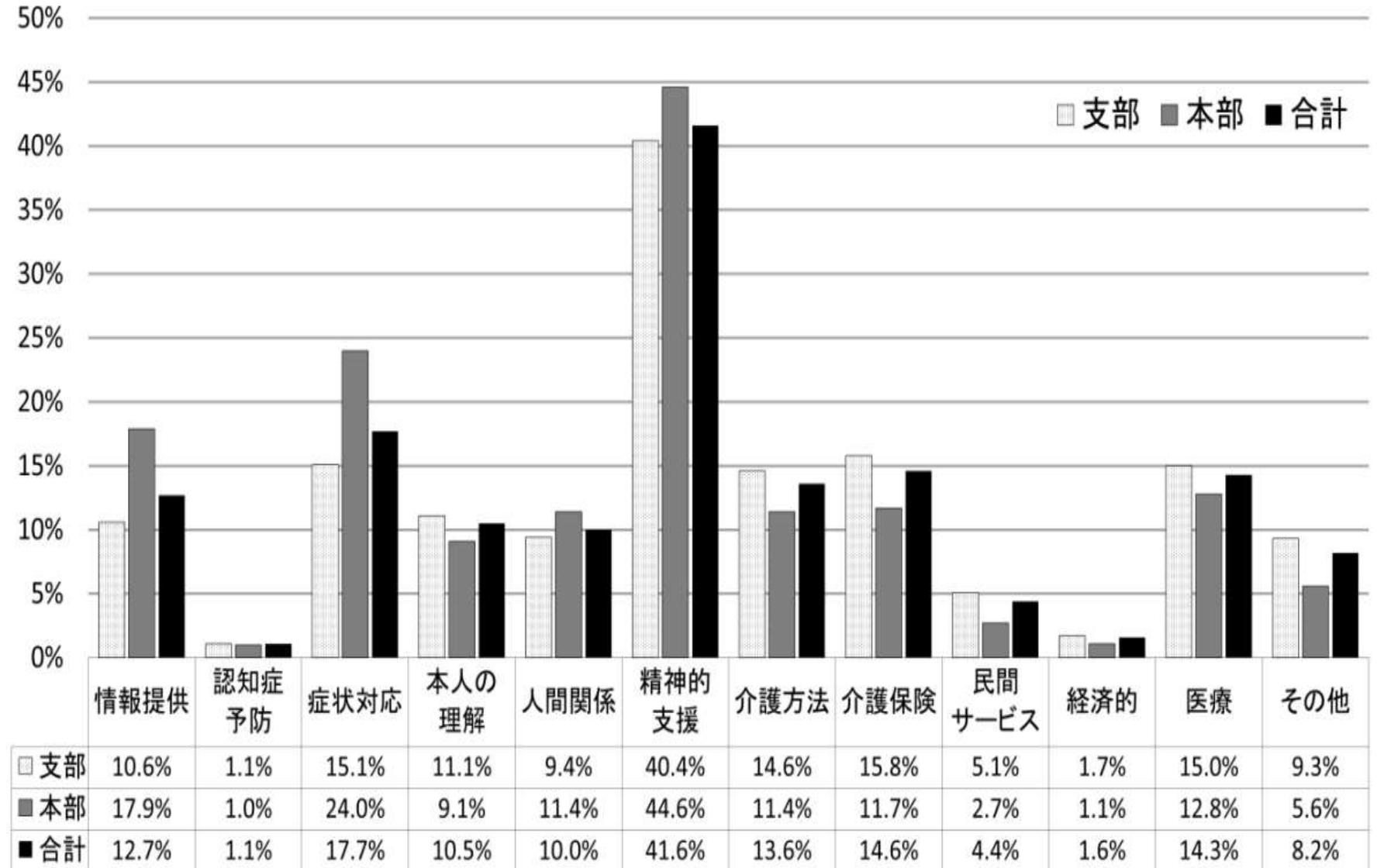


4. つどいや電話相談から聴こえてきた声

介護中の家族の声 “電話相談・つどい” より



相談対応・上位 5 位
精神的支援 41.6%
 症状の対応 17.7%
 介護保険 14.6%
 医療 14.3%
 介護方法 13.6%
 最も順位の低いのは、
 支部と本部共に **認知症
 予防 1.1%** である。



相談事例・家族の思い

義父が血管性認知症の診断を受け義母が介護をしていましたが、私が4人目の子が生まれ3カ(月)目に義母が脳梗塞で倒れ、半身不随で寝たきりになり意思疎通も難しい状況になりました。私はこの二人と4人の子育て、嫁家の事業で大変だったうえに、一番悩まされたのは、口を出しても手を出さない親族でした。漬物石に押しつぶされるような精神的にストレスフルな事件もありました。そのとき「家族の会のつどい」に参加し救われました。義母に替わって義父の介護を始めたころ、自分が看なくてとはと気負い、義父がやっていることがすべて気になって、手を出しすぎて関係が悪くなり、毎日喧嘩ばかりしながら介護していました。それが交流会(つどい)に行くと、自分だけでなく、もっと大変な人がいると思えて、自分のことも話せて、帰ると数日は優しくできるのです。

3年前、60歳台後半でアルツハイマー型認知症と診断された夫のことで悩んでいるとき、知人に勧められ、話を聞きに行ってみようと思ったのが「家族の会」を知った始まりです。夫の両親も認知症だったし、覚悟はしていたつもりだが、あまりに早いと思ったし、他の方の話を聞いて参考にさせてもらいたいと思っています。

80歳台の母とは別々に暮らしています。週に1、2回、夕食を作って持って行くのですが、母は「ありがとう」と言う時もあれば、先日は「人に恩をきせて…」と言われ、涙が溢れました。

グループホームに入居してほしいのですが、ケアマネジャーからはキーパーソンである弟が入居を反対しているのであれば、できませんと言われました。

介護中の家族の声 電話相談やつどいで仲間と繋がって・・・

介護をしていると、とてつもない孤独と光の届かない闇の中にいるような気持ちに襲われます。ですが、その底なしの闇の底の底に、小さな光はあるのではないのでしょうか。そしてその小さな光が照らし出すのは、私たちは私たちが私達でいることができる、そんな社会なのだと思います

認知症の人と家族の会

全国研究集会in福井 報告書より

診断されて3年が過ぎたころより、主人ともども「今の人生で良かった…」と思えるようになりました。講演や会議に夫婦で出かけることも多くなり、本人の記憶は少しずつ、少しずつ減っていきますが、減った分以上に主人のことを記憶してくれる方が増えているんだなあ～と思います。

認知症の人と家族の会

会員からの手紙より

5. 認知症の家族をささえるためには

認知症の介護家族を支えるとは

- ・ 認知症の問題は、本人がその後の人生をどう生きるかということとともに、それを支える家族がどう暮らしてゆくかという問題でもある。

家族にとっては“精神的な悲しみと暮らしてゆくつらさ”を同時に抱えることになる。
どんなに本人支援が充実しても家族に対する固有の支援が必要

本人支援と別個に家族支援が必要ではないか。
それは現に介護している家族の立場から、実際の生活の中から必要とされるものでなければならない。

⇒ 本人支援と別個の家族支援というものがあるのか？
あるとすればそれはどのような支援なのか？

ありがとうございました



公益社団法人
認知症の人と家族の会

もっと知ろう もっと語ろう
にん ち しょう
認知症

9月21日は
世界アルツハイマーデー

認知症になっても安心して暮らせる社会を

